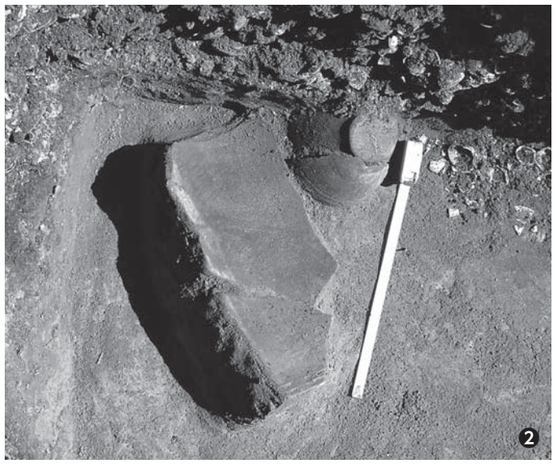
銚子のたからものを守る

余山貝塚を掘ってみた



❶❷縄文土器から貝層が形成された時期がわかります

貝塚には、縄文人が食べた貝や動物の骨が堆積しています。その中には縄文土器をはじめ多くの使用された道具も交じっています。
平成29年度の調査で確認された貝層は、一緒に出土した土器から縄文時代後期の貝層ということがわかりました。縄文土器は、時代を知る物差しになります。

❸❹貝層の中身の調査を行いました

調査で検出した貝層の土砂は全て土のう袋に入れて持ち帰りました。
水洗いして、中身を全て取り出し、貝殻と骨などに分類。専門家に確認作業を依頼しました。
❸は平成26・27年に調査した貝層

❺堆積していた貝殻からわかること

堆積している貝殻の約7割がチョウセンハマグリ、3割弱がダンベイキサゴ。そのほかコタマガイやヤマトシジミ、アカニシなどがわずかに混じっていました。貝殻を種類ごとに分け、貝の大きさを計測します。

❻骨は動物と魚類に分けます

水洗いをしたあと骨を抜き出し、専門家に分析をしてもらいました。動物の骨で最も多かったのは、ニホンジカ。鳥類の骨も比較的多く、水辺に生息する鳥の仲間が多かったと報告を受けました。魚の骨はクロダイ属やタイ類を主体として、スズキ属、ボラ類が次に多いことが分かりました。

❼❽シカの角や骨を使って道具を作る

下総台地には、縄文人の食料となるシカやイノシシがいました。それらの動物を食料とした後、その骨などを使って魚を獲る「釣針」や「モリ」「ヤス」を作っていました。（写真の資料は今回の調査で出土したものではありません）

❾ベンケイガイの貝輪の未製品がたくさん出土

余山貝塚はベンケイガイを使用した貝輪（ブレスレット）をたくさん作っていた、と言われています。平成29年度に確認された貝層からは、作っている途中の貝輪が111点見つかりました。

始まりは余山貝塚から

高田川沿いで活躍する3団体のうちの1つで、最も早く活動を始めたのが余山貝塚美化の会。

地元の皆さんの「地域の宝、余山貝塚を後世に残したい」という地域への深い思いが、余山貝塚の発掘調査に繋がりました。

余山貝塚は、利根川岸の標高約7mの砂の高まりにある縄文時代から平安時代の遺跡です。特に縄文時代後晩期の貝塚として知られています。

余山貝塚は、明治期から東京大学人類学教室をはじめ多くの研究者に発掘調査されてきましたが、余山貝塚の全貌が分かる詳細な報告書はこれまで刊行されていません。

そこで、市教育委員会は、平成26年度から令和2年度にかけて、主要貝層の状況や縄文時代の集落範囲を確認するため調査しました。

貝塚は、縄文人が食用などの目的で採って集落内外に捨てた遺跡です。貝塚で貝が堆積している部分を「貝層」といいます。余山貝塚の貝層は高田川右岸の緩斜面に沿って東西約180m、南北約120mの範囲に広がっていて、一番多く含まれるのはチョウセンハマグリです。

▲H27の調査で出土した縄文土器と石剣

貝層から検出した動物や魚の骨の分析も始まったばかりです。

貝層がどこまで広がり、どこに残っているのかを確認する必要もあります。

また、大量の作りかけの貝輪は見つかったのに、縄文人が住んでいた住居跡はあまり見つかっていません。ここに貝塚を作った縄文人はどこで暮らしていたのでしょう。まだまだ多くの謎を解いていく必要があります。今後も余山貝塚の調査を続けます。お楽しみに。

問 文化財・ジオパーク室
☎(21)6662

縄文人も
イワシが好きだったのかな？